

新型コロナ禍の中でも…

地域医療つづしを進める

自・公政権の病院統廃合

新型コロナ禍で

ベッドの確保が困難に

新型コロナウィルス感染の先が見えない中、医療崩壊が起こりつつあると多くの人が不安を訴えています。

入院対応できる病棟やベッドの確保が難しくなっており、外科などでは手術も延期をせざるを得ない状況になりつつあります。

ベッド不足の要因は

平時の医療政策に問題

なぜこんなことになってしまったのかですが、「平時」からの施設確保のあり方に問題があったと言えます。

長年に渡り自民党政権は、日本の病床数は多すぎるとしてベッドの削減を進めてきました。1990年に153万床あった一般病床を、2013年には134万

床にまで減少。

さらに削減を推進するため2015年、公立病院には「新公立病院改革ガイドライン」に従って「病院の再編や統合」「経営の効率化」などの計画作成を迫ってきました。

そして2016年には、全都道府県で「地域医療構想」策定させて、ベッド削減を進めました。現在の目標は2025年には119万床以下にする方針で、どんどんと削減が進められている状況です。



止まらない削減
問われる地域医療

新型コロナウィルス感染で大変ななかでも、加藤厚労大臣は「従来の方針通りに病院の再編・統廃合を進めて行く」と強気の発言とともに、今年の9月までに検討結果を示す方針に変わりはないことを強調しました。

今回の「再編・統廃合」は公立・公的病院だけの問題でなく、今後の地域医療の充実・拡充の有り方を考えると、政府の医療費削減を軸とした政治を転換させていきましょう。

【資料提供…生活と健康を守る新聞】

ほほえみ歌壇(俳句) (俳句サークル(第4金曜日))

てばかり えんどう

手秤で豌豆売らる朝の市
いますこし間隔欲しき燕の子
釣終へて戻る小径や月見草
母の日のコロナ娘の遠くなり

むかご蔓支柱に捲きて空仰ぐ

稲森 善稔

西村 雅尾
山元 文子
吉田 正明
木村 三醒

お気軽にご相談下さい

何でも相談会

7月2日(木)

場所 こびらい生協診療所ホール

毎月第1木曜日(開催 10時~12時)に変更。

=しが健康医療生協、草津生健会 共催=

